

平成25年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	京都府教育委員会
研究開始年度	平成25年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名 (ふりがなを付すこと)
京都府	特別支援学校	きょうとふりつう じしえんがっこう 京都府立宇治支援学校

### 2 研究テーマ

「地域学習」(地域社会と協働した学習)の試行による、知的障害のある児童生徒の自立と社会参加を実現する教育課程づくり

### 3 研究の内容

#### (研究内容)

京都府としては初めて市街地に新設した特別支援学校である宇治支援学校では、障害のある児童生徒の自立と社会参加を実現するために、「各教科等を合わせた指導」を中心とした教育課程を編成するとともに、学習内容として地域社会と協働して取り組む「地域学習」を積極的に展開している。こうした実践の上に以下の目的、仮説をたて、検証を行った。

#### ア 研究目的

- ① 全校的に「地域学習」を検証しながら取り組むことから、授業及び教育課程の改善を図る。
- ② 地域社会との交流の中で、本校の教育を発信することから共生社会の形成を推進する。
- ③ 指定校の「地域学習」を全国に発信する機会とする。

#### イ 研究仮説

- ① 知的障害のある児童生徒にとって、「各教科等を合わせた指導」を教育課程の中核に据え、生活に密着した具体的な内容において指導を展開することが、将来の自立と社会参加に向けた有効な指導方法ではないか。
- ② 具体的な指導内容においては、地域社会と協働し、校内の人的・物的資源だけでは取り組めないような社会生活につながるダイナミックで現実的な活動に取り組むことが、児童生徒の力を高めるとともに地域社会における共生社会の形

成を推進し、ひいては児童生徒の自立につながるのではないか。

(評価の観点及び評価方法)

ア 評価の観点

- ① 各授業・教育課程が、児童生徒一人一人の社会自立につながるものになっているか。
  - ・「キャリア教育」の観点からの授業改善
  - ・実践的応用力が求められる「地域学習」と、そこにつながる基礎的な力を付ける授業内容がバランス良く配置された教育課程
- ② 地域住民の中に、本校の教育・障害のある児童生徒の認知や理解が広がっているか。

イ 評価方法

- ① 有識者（元愛媛大学教授 上岡一世氏）による授業評価
  - 定期的な授業参観による「キャリア教育」の観点からの授業評価
  - 授業研究会における指導助言
- ② 地域住民等からなる外部評価者チームによる授業評価
  - 授業公開日におけるアンケート及び聞き取りによる授業評価
- ③ 喫茶「カフェJOY」来校者、学校公開日参観者による授業評価
  - アンケート調査の実施
- ④ 保護者による評価
  - アンケート調査の実施
- ⑤ 児童生徒による評価
  - アンケート調査の実施
- ⑥ 地域住民による評価
  - アンケート調査の実施

#### 4 研究成果の概要

##### 1 児童生徒一人一人の社会自立につながるための授業・教育課程の改善

###### (1) 「キャリア教育」の観点からの授業改善の推進

- ・研究協力者の元愛媛大学教授上岡一世氏による研究授業への評価や講演によるキャリア教育についての研修を定期的に行うことにより、授業改善を中心とした研究をキャリア教育の視点を持って行うことができた。
- ・「地域学習」をキャリア教育の観点でとらえるにあたり、「小学部」「中学部」「高等部」を学習の積み上げにおける単位として考え、その特色をキーワード「小学部：参加・ルール、中学部：協力・マナー、高等部：貢献・責任」として位置付けることにより、各学部での授業づくりへの共通した視点を持つことができ、学部間のつながりを意識することができた。
- ・先進校視察を行うことにより、キャリア教育の実践や研究についての情報を集めることができ、実践改善の方向性や意味を確かめることができた。

###### (2) 「地域学習」の共通理解と学習内容の充実

- ・過去2年間の「地域学習」の実践から、とらえ方や大切にしたいことを整理することで、地域の様々な人や場所を教材として活用し地域社会と協働する「地域学習」についての共通理解が教職員の中で深まった。
- ・研究授業等で活用している学習指導案に、「地域学習の観点」の記述欄を設けることにより、常に地域との接点や地域での生活を意識し、将来の生活に生かせる具体的な内容を精選し、指導を充実させることができた。
- ・「地域学習」の取組を、内容と大切にすべき点から整理し、他の学校においても使えることをポイントとした「つかえる事例集」としてまとめ、府内特別支援学校、校区小・中・高等学校といった教育機関に配布し、活用を広げるとともに、障害のある児童生徒の理解を広げる目的から福祉事業所等の関係機関にも配布した。

##### 2 本校の教育・障害のある児童生徒の認知や理解の地域住民への広がり

- ・年8回の学校公開日の授業参観時におけるアンケートにおいて、自立と社会参加につながる取組について、テーマを決めて意見を記入してもらうことで、地域住民や保護者の方の考えを知ることができ、また、児童生徒への理解が深まっていることが分かった。
- ・地域と学校をつなぐ施設である「カフェ JOY（校内喫茶店）」の来客者へのアンケートなどによる地域住民や保護者の声を授業改善に生かす取組を継続して行うことにより、児童生徒の持っている力を認めてもらえる意見が増えた。
- ・担任の計画する「地域学習」を支援する組織として地域学習支援担当という分掌を置き組織的に取り組むことにより、地域資源を積極的に取り入れることができた。それにより、地域ボランティアサークルなどの方の学校への理解も深まり、学校と地域の協働による両者の学びについて具体的理解が深まった。

- ・総合文化祭や「宇治芸術を楽しむ日」「地域の方との合同防災訓練」などの取組を重ねることで、学校についての理解も深まり、「もっと児童生徒と共に何かをさせてもらえないか」という意見も聞かれるようになった。
- ・保護者アンケート、生徒アンケート、卒業生アンケートなどの多様な評価を行い、広く評価を求めることで、実践の評価を多面的に行うことができた。また、学校評議員による研究授業の参観や「つながる授業」見学会・研究会（\*）でのパネルディスカッションのパネラーとしての評価から、学校の教育方針の理解の広がりを確認するとともに、今後の学校経営に生かせる示唆を得ることができた。
- \* 「つながる授業」見学会・研究会とは、本研究事業の成果を教育関係者だけでなく、保護者、地域住民、地域の関係機関等の障害のある児童生徒を取り巻く関係者に広く共有するために開催したもの。「つながる授業」とは、「地域学習」を中心とした授業の中で、児童生徒が互いにつながる力を身に付けるとともに、児童生徒が積極的に地域社会に貢献することから、地域社会と児童生徒、地域社会と学校が互いの良さや役割を認め合える共生社会の形成に寄与する授業のことである。

### 3 平成26年度に向けた課題

- ・アイデア豊かに全校で取り組んできた「地域学習」だが、今後は生活年齢等との関連から、その時期に学ぶ内容を精選し、卒業後の豊かな生活をめざして系統的に学べるように更なる改善が必要である。
- ・实际的・具体的な指導場面である「地域学習」において、一人一人が持てる力をより発揮できるよう、平成 25 年度から「基礎的な学習の時間」を設けた。平成 26 年度は、「各教科等を合わせた指導」として、生活に生きる基礎的・基本的な学力等を身に付ける「基礎的な学習の時間」と、实际的・具体的な活動である「地域学習」とを関連付けた総合的な教育課程の在り方について実践研究を行う。